

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520456

研究課題名(和文) 地理的変異に基づくスペイン語の統語研究

研究課題名(英文) Syntactic studies on Spanish geographical variation

研究代表者

高垣 敏博 (TAKAGAKI, Toshihiro)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：00140070

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：スペイン語の地域的変異をとくに統語的観点から調査するのが本研究の目的である。そのためにこれまでスペイン10都市、ラテンアメリカ14都市において20程度の文法テーマに関する110項目についてのアンケート調査を通して約500人分のデータを収集し分類してきた。2年目は中米とカリブ海の2か国、スペインの1都市を加えた。最終年はこれまでの成果の評価年と位置づけ、スペインの言語学者Elena de Miguel氏を招いたとともに、国際学会などで本研究について発表し、評価を受けた。

研究成果の概要(英文)：This project has been intended to create a grammatical database of Spanish, which is spread over 23 countries and regions of the world with a great amount of syntactic variation. So forth we have carried out our survey with 110 questions based on 20 grammatical topics in 10 Spanish and 14 Latin American cities. The last year has been dedicated to evaluation of our project.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：統語論 言語地理学 方言学 パラメター

1. 研究開始当初の背景

スペイン語は、スペインを含め 23 の国と地域で用いられるグローバルな言語であるが、比較的均質であるといってもよい。しかしながら、発音、語彙、文法などには地域的変異が見られる。音声や語彙についてはこれまで統一的に扱う研究がなされ、一定の成果が得られてきた(本研究の分担者一部および代表者による語彙調査 - Varilex - もその一つといえよう)。ところが、文法現象に特化して、広いスペイン語圏にまたぐ調査・研究については前例がほとんどない。統一的な現地アンケート調査を通して、スペインとラテンアメリカの広大な地理的範囲に広がるスペイン語の地域差を分析する本研究はこうして誕生したが、すでに 10 年を超えている。共通の質問項目に基づいて文法(統語)的変異についた、一貫した調査を通して見取り図を得ようというのが本研究の発端である。

所与の言語の統語的研究は、言語内の分析によるものが中心であることはいままでもない。しかし、地理的、方言的違いを考慮することにより、その分析に新たな、これまで気づかない視点が生まれることがある。方言的なまとまりを観察することにより、動態的な見方が成り立つことがある。このような視点や見方を得ることが本研究の動機となった。

2. 研究の目的

スペイン語の文法研究の中で問題となる統語現象(叙法、人称代名詞、再帰代名詞、関係詞、性・数の一致、主述の一致、語順、ボイスなど 20 程度のテーマ)の使用実態を地理的バリエーションの観点から捉えなおし、新たな分析・研究方法を提示することを中心課題とする。スペイン語は 23 の国や地域で用いられる広域使用言語であるが、スペインとラテンアメリカ(以後、ラ米)における 30 程度の地点で共通の文法変異アンケート調査を実施し、得られた結果を数値化し比較・相対化することにより、これまで前例がない「スペイン語文法」のいわば「方言地図」を作成し、文法研究に地理的変異という新たなパラメータを導入する目標をもつ。

3. 研究の方法

まずスペインで試行的現地調査において、9 地点で約 200 名のインフォーマントに 100 余項目のアンケートを行い、スペイン諸都市のデータを収集するとともに上記の課題設定の有効性を確認した。

[Ejemplo 1]

Yo la dije la verdad. (la = María)

✓ (1) Yo lo diría así.

(2) Yo no lo diría, pero lo he oído decir.

(3) Yo no lo diría ni lo he oído decir.

(4) Comentarios: _____

[Ejemplo 2]

No estoy seguro(a) de que *tenían* dinero.

(1) Yo lo diría así.

✓ (2) Yo no lo diría, pero lo he oído decir.

(3) Yo no lo diría ni lo he oído decir

(4) Comentarios: Diría: tuvieran

アンケート例

さらに科研費の継続により現時点までにラテンアメリカの 14 都市における現地調査、スペイン 10 都市における現地調査を実施、スペインとラテンアメリカの大部分の地域との比較ができるようになった。

14: Ellos entraron "al edificio."

Ciudad	Sexo	Edad	Respuesta			TOTAL
			1. ASÍ	2. COMO	3. NO	
1. Oviedo	Hombre	10-19	1	1		2
		20-29				
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4	1		5	
Mujer	10-19	11			11	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	14			14		
Mujer Total	14			14		
1. Oviedo Total		18	1		19	
2. Pamplona	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	4			4	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	7			7		
Mujer Total	7			7		
2. Pamplona Total		11			11	
3. Barcelona	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
3. Barcelona Total		8			8	
4. Alcalá	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
4. Alcalá Total		8			8	
5. Madrid	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
5. Madrid Total		8			8	
6. Barcelona	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
6. Barcelona Total		8			8	
7. Sevilla	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
7. Sevilla Total		8			8	
8. Huelva	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
8. Huelva Total		8			8	
9. Alicante	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
9. Alicante Total		8			8	
10. Las Palmas	Hombre	10-19	1			1
		20-29	1			1
		40-49	1			1
		50-59	1			1
	Hombre Total	4			4	
Mujer	10-19	1			1	
	20-29	1			1	
	40-49	1			1	
	50-59	1			1	
Mujer Total	4			4		
Mujer Total	4			4		
10. Las Palmas Total		8			8	
TOTAL		118	1		119	

地域別のデータ例

所与の文法テーマについてスペインにおける標準語の使のみを観察しているだけでは決してわからない実態がさまざまな文法現象において明らかになってきた。今期は、スペインではこれまで欠けていた北西部のサラマンカと、ラテンアメリカでは、カリブ海のキューバ・ハバナ市およびプエルトリコ・サンファン市を追加することができた。今後、同じくドミニカ共和国、および、中米で政情不安定などの理由により調査を果たせていない国をいくつか追加する必要があるだろう。また、メキシコ、アルゼンチン、チリ、ペルーなどの広大な国々ではすでに調査した首都のみの調査では十分といえない。今後

可能な限り地点を増やしデータの精密化をはかっている。

文法現象の具体例として、<動詞 entrar 「入る」+前置詞 en / a「～へ」>の前置詞交替現象で、一般的にはラ米は a、スペインは en とされているが、実際には双方で、使用頻度は近似すること、またラ米の結果も一様ではなく、むしろスペインに似る結果の都市があることも確認された。

また弱形人称代名詞の対格・与格形式の通時的変遷について、一般に機能を中心とする体系が、過渡的体系を経て、指示物主体の体系へと移行していくと見られる (Los Mozos, S. 1984; Fernández-Ordóñez, Inés 1999) が、使用実態の調査結果を比較することにより、ラ米一般、スペイン一般、そして特にスペイン首都圏に代表される 3 地域が地理的にこの 3 段階に対応していることがアンケート結果から確かめられた。

また、調査過程で新たな問題のありかが明らかになることもある。例の一つは先住民語の干渉により受ける影響の可能性である。ボリビアの首都ラパスおよびエル・アルトの大学における調査では、弱形人称代名詞対格 lo の代わりに le の比率が高いことが判明した。これは現地のアイマラ語やケチュア語の影響が想定できる。これは興味深いことに離れたパラグアイで同じようにグアラニ語の干渉であろうか、やはり le の使用頻度が高い共通性が調査から観察される。このことは現地調査の副産物であるが、新たな注意点として考慮していくことになる。

4. 研究成果

これまで今期を含め、通算 4 期 12 年にわたり、スペイン 10 都市、ラテンアメリカ 14 都市において 20 程度の文法テーマに関する 110 項目について現地におけるアンケート調査を通して実施してきた。すでに約 500 人の被験者により提供されたデータを収集し分類してきた。研究成果は、本研究を Varigrama (世界のスペイン語の文法バリエーション) と名づけ、研究分担者上田博人のホームページ

(<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/varigrama/index.html>) 上で公開されている。

この他、内外の学会などを通じて成果を発表するとともに、今期は米国ニューヨーク市大学における国際学会にて成果の一部報告をした。また統語意味理論の専門家であるマドリッド自治大学のエレナ・デ・ミゲル教授を招待し、代表者の勤める東京外国語大学および分担者の勤務する神戸市外国語大学、上智大学にて講演や打ち合わせを通じて、本研究の評価を受けることにより、研究に新たな視点をもたらされた。

成果はスペイン語研究者、スペイン語教育関係者、言語研究者、スペイン語学習者、大学院生も周知をはかっていることは言うまで

もなく、一般市民にもアクセス可能な状態を継続する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

高垣敏博「スペイン語の所有・存在表現」『語研論集』. 東京外国語大学語学研究所。Pp.181-120, 2013 年。査読有

高垣敏博「事象構造とスペイン語の受動表現」東京外国語大学, 2013 年 査読なし

上田博人「広域スペイン語語彙バリエーション研究における新しい数量

化の試み - 日本語計量言語地理学の方法に学ぶ - 」『日本語・日本学研究』東京外国語大学国際日本研究センター vol.3, 2013. pp 59-90.

査読有

ルイス、アントニオ “Twitter como corpus para estudios de geolingüística del español”, en *Sophia Lingüística LX*, pp 147-163, 2013. The Graduate School of Languages and Linguistics, Linguistic Institute for International Communication, Sophia University, 査読有

上田博人 “Lingüística cuantitativa: Curial vs. Tirant. Una mateixa procedència geogràfica?” with Colon, G. and Perea, M.-P. *Vox Romanica*, pp. 131-159. 2012. 査読有

上田博人・ルイス、アントニオ. “La motivación de los alumnos de ELE y las explicaciones gramaticales: El porqué de «se lo»”, *Cuadernos del Observatorio de la lengua española en Japón*, pp. 13-18. 2012 Universidad de Estudios Extranjeros de Kioto. 査読無

福嶋教隆 “Las expresiones de rol en español. Un estudio contrastivo con el japonés”, *Cuadernos CANELA* 23, pp.9-26, 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会. 査読なし (招待)

上田博人, “Razones de «gelo» medieval y «se lo» moderno. Un estudio filológico y enseñanza-aprendizaje de ELE”, *Actas del VII Congreso Internacional de la Asociación Asiática de Hispanistas, Universidad de Estudios Extranjeros de Beijing*, 26-28 de agosto de 2011, pp. 60-69. 査読無

宮本正美「入門・初級者のためのスペイン語規則動詞の見分け方」、『神戸外大論叢』, 第 62 巻, 第 4 号, pp.27-42, 2011. 査読有

福嶋教隆「スペイン王立学術院の叙法の取り扱いについて」、『神戸外大論叢』62: 4, pp.7-26, 2011. 神戸市外国語大学. 査読有

ルイス・ディノコ “Variación léxica y gramática del español peninsular e

hispanoamericano”, The Korean Journal of Hispanic Studies, Vol. 3 pags. 29-53. Institute of Hispanic Studies, Korea University, Seoul. 査読無

〔学会発表〕(計 8 件)

高垣敏博: “Variación gramatical del español: Algunos resultados del proyecto VARIGRAMA”, Congreso Internacional Sobre el Español y la Cultura Hispánica en Japón (2013 年 10 月 3 日、於東京セルバンテス文化センター).

福嶋教隆: Existe el subjuntivo en japonés? Congreso Internacional sobre el español y la cultura linguística, セルバンテス文化センター東京, 2013 年 10 月 3 日

高垣敏博: 「スペイン語受動表現における義務的な<por 動作主句>について」, 東京スペイン語学研究会月例会(2013 年 7 月 27 日、於東京外国語大学).

ルイズ、ティノコ、アントニオ:

Variación de la anteposición de más con adverbios de negación”, V International Conference on Corpus Linguistics, Universidad de Alicante. 2013 年 3 月 14-16 日

上田博人: “Analizador lingüístico común con parámetros de gramática, diccionario y cadenas de aplicación”, V Congreso Internacional de Lingüística de Corpus, 2013 年 3 月 15 日.

ルイズ、ティノコ、アントニオ:

Alternancia indicativo/subjuntivo en Twitter en el español de Estados Unidos”, II ALFALito, Cuestiones lingüísticas en relación con la diáspora latinoamericana”, The Graduate Center, City University of New York. 2012 年 9 月 28 日

上田博人: 「広域スペイン語語彙バリエーション研究における新しい数量化の試み - 日本語計量言語地理学の方法に学ぶ - 」東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門第 6 回研究会。(招待講演) 2012 年 7 月 21 日

上田博人: “Análisis cuantitativo de los datos dialectales. Varilex, ialectometría, aplicación”, Concejo Superior de Investigaciones Científicas, Madrid, 2011 年 6 月 3 日

〔図書〕(計 2 件)

上田博人: Producción y evaluación de los materiales audiovisuales para ELE. Madrid. Arco / Libros, 2013 年

福嶋教隆: El español y el japonés 神戸市外国語大学外国学研究, 2013 年

〔その他〕

ホームページ等

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/varigrama/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高垣 敏博 (TAKAGAKI, Toshihiro)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 00140070

(2) 研究分担者

上田 博人 (UEDA, Hiroto)
東京大学・総合文化研究科・教授
研究者番号: 20114796

宮本 正美 (MIYAMOTO, Masami)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 20131477

福嶋 教隆 (FUKUSHIMA, Noritaka)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 50102794

ルイズ・ティノコ, アントニオ
(RUIZ TINOCO, Antonio)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号: 80296889